

## 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：今後の河道掘削箇所における設計段階での取組		
水系/河川名：沙流川水系/沙流川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：1350	整備計画流量：4500m <sup>3</sup> /s	セグメント：2-2
事業：河川改修	事業開始年度：～R7年度	
目標設定：定性的	段階：P(計画時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保、湿地、ヨシ原の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(低水路)		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、歴史・文化への配慮		

## 背景・課題、目標設定

## &lt;背景・課題&gt;

沙流川流域は、先史時代から人々が生活の足跡を残し、アイヌ文化の時代にあつては道内で有数のコタン(集落)を形成し、アイヌの人々が先住している地域である。平取町においては、このアイヌ文化を後世に伝えるため、その発展と関わりの深い沙流川を中心としたアイヌ文化をさらに振興させる構造として「平取地域※イオル再生事業」を進めている(※イオル:「伝統的生活空間」を示すアイヌ語)。

沙流川水系河川整備計画においても「流域に伝わるアイヌ文化などの継承が図られるよう努める」としており、河道掘削等の実施にあたっては、アイヌ文化における有用植物(ヨシ・ガマ等)の生育環境保全・創出の視点でも配慮が必要である。

今後の河道掘削を予定している今回の検討箇所では、高水敷は自治体が整備した親水公園に隣接し、市街地に近接している事もあって普段から町民の憩いの場として利用されている他、平取町の「平取地域イオル再生事業」の有用植物の採取場として占用利用されている。

なおこの箇所は前述の事業と連携した「平取町かわまちづくり」のフィールドとして、基盤整備を室蘭開発建設部で行った経緯がある。

さらに平取町内の沙流川流域には「重要文化的景観」に指定されている箇所が点在し、「イオル水辺空間と水際の植物」は文化的景観の構成要素の一つとして位置付けられている等、関連する計画・要素が多くある。



## &lt;目標&gt;

地域に根付く文化や、多様な計画・事業が関係する箇所で、関係者との連携・調整を効率的・効果的に図りかつ合意形成を得ることである。

## 取り組み内容

## &lt;取り組み内容&gt;

- ・河道掘削の設計を進める中で、地域意見の反映を目的とした取組について模索中であった。
- ・一方、平取町が進める「平取地域イオル再生事業」で、当該箇所のあり方を関係者間で話し合う場が既に存在(水辺部会)しており、ここでも同じタイミングで河道掘削後の姿が議題となり始めていた(町からの情報)。
- ・水辺部会では、沙流川流域での有用植物の素材確保必要量不足が課題となっており、河道掘削に合わせた生育の場の創出可能性を模索し始めていたところであった。
- ・この事から、地域の意向確認及び意向との調整を図るべく、水辺部会及び水辺部会へ向けた勉強の場、現地ワーキングへ積極的に参加することで、整備の方向性のゾーニングを進めたものである。



## アピールポイント、今後の対応方針

## &lt;アピールポイント&gt;

- ・水辺部会へ参加するにあたり、初期段階での河道掘削形状等の提示をする際には、掘削法面の勾配や掘削敷高、水位の記載を省き提示内容を最小限にとどめた。
- ・河道掘削形状等を最小限にとどめることにより、ヨシやガマの生育を意識した掘削敷高や掘削面の滞水を目的とした網場や水制設置等の活発な意見交換をすることができた。

## &lt;今後の対応方針&gt;

- ・地域の意見をふまえた掘削形状等について合意形成を図り設計を行うとともに、維持管理のあり方や施工時の取組などについて水辺部会と調整を図りながら成果をまとめる予定。

## 備考

問い合わせ先 北海道開発局 室蘭開発建設部 治水課・室蘭開発建設部 苫小牧河川事務所  
電話番号 0143-22-9171・0144-57-9800